

令和7年度

福島県立医科大学大学院保健科学研究科
保健科学専攻(修士課程)

学 生 募 集 要 項

公立大学法人
福島県立医科大学

保健科学研究科保健科学専攻アドミッションポリシー

本学大学院保健科学研究科保健科学専攻では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、専門性の高い知識と技術の修得を志向し、熱意を持って主体的に学んでいこうとする人を求めています。

● 求める学生像

1. 保健科学領域における自身の役割を自覚し、多職種で協働し福島県内において質の高い医療を提供する意欲のある人
2. 専門領域における高度な知識と技術を修得し、研究・教育・臨床での活動を通じ、リーダーや教育・研究者として社会に貢献しようとする人
3. 自己研鑽に努め、主体的に学びを深め研究を遂行する意欲と、そのために必要な知識や思考力を持つ人

安全保障輸出管理について

福島県立医科大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき「公立大学法人福島県立医科大学安全保障輸出管理規程」を定めて、貨物の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から、学生の受入れに関して、厳格な審査を実施しています。

2022年5月「外国為替及び外国貿易法」の一部改正による「みなし輸出」における管理対象者の明確化に伴い、機微技術の提供において学生が特定類型該当性を有する場合には新たに管理対象となりました。

これに伴い、本学への出願者全員に対して「外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第2項の遵守のための特定類型該当性に関する確認書兼誓約書」の提出を求めることになりました。

本要項添付の「外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第2項の遵守のための特定類型該当性に関する確認書兼誓約書」をご確認いただき、該当結果をご記入の上、出願書類とともにご提出ください。

※日本国籍の方を含め、一般入試出願者全員「外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第2項の遵守のための特定類型該当性に関する確認書兼誓約書」の提出が必要になります。

※一部の学生においては、入学手続き前に「誓約書」の提出が必要となる場合があります。

※該当結果によっては、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合がありますので、出願前に希望する分野の指導教員に相談するなど、出願にあたっては注意してください。

目 次

【大学院保健科学研究科保健科学専攻（修士課程）学生募集要項】

1	募集人員	1
2	入試日程	1
3	出願資格	1
4	出願資格審査	2
5	出願手続	3
6	入学者選抜方法	4
7	試験期日、時間及び試験場	5
8	受験時の注意事項	5
9	合格者発表	5
10	入学手続	5
11	入学手続上の注意事項	6
12	個人情報の取扱いについて	6

【大学院保健科学研究科保健科学専攻（修士課程）の概要】

1	目的	7
2	構成	7
3	授業科目の概要等	7
4	学位の授与	7
5	奨学金制度	7
6	授業料等減免制度	7
7	長期履修制度	7
8	問合せ先及び大学案内図	8

別表 1	授業科目	9
別表 2	授業科目の概要	11
別表 3	各研究領域の指導教員連絡先	18

【本研究科所定の様式】

入学願書、写真票・受験票、志望理由書、実務活動経歴書、受験許可書、特定類型該当性に関する確認書兼誓約書、出願資格審査申請書、研究・実務活動歴、払込取扱票等（郵便局）（以上綴じ込み）

入学願書等送付用封筒、受験票送付用封筒

令和7年度 福島県立医科大学大学院保健科学研究科 保健科学専攻（修士課程）学生募集要項

1 募集人員

専攻名	領域	募集人員
保健科学専攻	理学療法学領域 作業療法学領域 診療放射線科学領域 臨床検査学領域	16名 （一般選抜・社会人選抜の合計。 選抜区分ごとの人数は定めません）

※ 本専攻の概要はP7をご覧ください。

※ 出願の際は本学ホームページ等で最新の状況をご確認ください。

2 入試日程

	冬季選抜試験
出願資格審査申請期間	令和6年11月6日(水)午後5時まで
出願期間	令和6年11月11日(月)午前9時 ～令和6年11月20日(水)午後5時
試験日	令和6年12月15日(日)
合格発表	令和6年12月25日(水)

3 出願資格

入学者選抜は、一般選抜及び社会人選抜を実施します。

出願できるのはいずれか一方であり、出願後に選抜区分を変更することはできません。

【一般選抜】

次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和7年3月までに授与見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7年3月までに修了見込みの者
- (4) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和7年3月までに修了見込みの者
- (5) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第155条第1項第6号に規定する文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を

優れた成績をもって修得したものと学長が認めた者

- (7) その他、大学を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者で、令和7年3月31日までに22歳に達する者

【社会人選抜】

保健医療機関、介護施設、社会福祉施設、教育研究機関、官公庁又は企業等において専門的な実務経験を有し、かつ一般選抜試験の出願資格(1)～(7)のいずれかに該当する者とする。

4 出願資格審査

「3 出願資格」の【一般選抜】及び【社会人選抜】の(6)及び(7)による出願資格審査申請手続きは以下のとおりとする。

(1) 申請期間

冬季選抜試験 令和6年11月6日(水)まで

受付時間：午前9時から午後5時まで（土曜日、日曜日、祝日を除く。）

郵送による場合は書留郵便とし、申請期間内必着とします。

（封筒表面に「大学院（修士課程）出願資格審査申請書在中」と明記すること）

(2) 提出先

〒960-8516 福島県福島市栄町10番6号

福島県立医科大学 保健科学部事務室 入試・企画係

（福島駅前キャンパス1階 教務関係事務室）

電話 024-581-5508（直通）

(3) 提出書類等

申請に必要な書類	提出区分	作成方法
出願資格審査申請書	(6)・(7) 必須	• 本要項添付の用紙を用いてください。 • 必要事項を記入してください。
成績証明書	(6)・(7) 必須	• 最終学歴として記載した学校等の長が発行し厳封したもの。
最終学歴の学校に関する資料	(6)・(7) 必須	• 入学資格、卒業要件、修業年限、カリキュラム等が記載されている資料を提出してください。
在学中の学校の在学期間を証明する書類	(6)のみ	• 在学中の者のみ提出してください。
卒業（見込）証明書	(7)のみ 必須	• 最終学歴として記載した学校等の長が発行し厳封したもの。
研究・実務活動歴	(7)のみ 必須	• 本要項添付の用紙に直接記入するか、本様式に準じてパソコン等により作成してください。 ※現在行っている研究活動または実務活動に関する内容、成果等を詳細に記載してください。 ※活動の有無に関わらず、必ず提出してください。
主な論文、研究発表等の写し（該当する者）	(7)のみ	• 業績として学術論文、著書、研究発表等を有する者は、提出してください。
出願資格審査結果通知送付用封筒	(6)・(7) 必須	• 長3封筒に住所、氏名及び郵便番号を明記し、410円分の切手を貼ってください。

(注1) 婚姻等により、卒業(見込)証明書等と姓が異なる場合は、旧姓を証明する書類(戸籍抄本等)を同封してください。

(注2) 上記のほか、必要により別の証明書等を求めることがあります。

(4) 出願資格審査の方法及び結果の通知

提出書類により総合的に判断し、出願期間までに資格審査結果を郵送により通知します。

5 出 願 手 続

本専攻を志願する場合は、出願する前(出願資格認定申請を行う場合は、その前)に、所属を希望する研究領域の指導教員に必ず連絡を取り、今後の教育・研究について相談してください。

(1) 出 願 期 間

冬季選抜 令和6年11月11日(月)～令和6年11月20日(水)

受付時間：午前9時から午後5時まで(土曜日、日曜日を除く。)

郵送による場合は書留速達とし、出願期間内必着とします。

(2) 提 出 先

〒960-8516 福島県福島市栄町10番6号

福島県立医科大学 保健科学部事務室 入試・企画係

(福島駅前キャンパス1階 教務関係事務室)

電話 024-581-5508(直通)

(3) 提 出 書 類 等

次の書類を本要項添付の封筒に一括して入れて提出してください。

出願に必要な書類	作成方法
入 学 願 書	<ul style="list-style-type: none">• 本要項添付の用紙を用いてください。• 必要事項を記入してください。
写 真 票	<ul style="list-style-type: none">• 本要項添付の用紙を用いてください。• 必要事項を記入してください。
受 験 票	<ul style="list-style-type: none">• 縦4cm×横3cmの写真(無帽、上半身正面、無背景、出願前3か月以内に撮影したもの)の裏面に氏名を記入し、所定の欄に貼ってください。
志 望 理 由 書	<ul style="list-style-type: none">• 本要項添付の用紙に直接記入するか、本様式に準じてパソコン等により作成してください。
卒業(見込)証明書	<ul style="list-style-type: none">• 最終学歴として記載した学校等の長が発行したもの。• 「3 出願資格」の(2)による場合は、学士の学位授与証明書又は学位授与申請受理証明書を添付してください。(ただし、本学保健科学部卒業(見込)者及び出願資格審査において提出済みの場合は、提出不要です。)
成 績 証 明 書	<ul style="list-style-type: none">• 最終学歴として記載した学校等の長が発行し厳封したもの。(ただし、本学保健科学部卒業(見込)者及び出願資格審査において提出済みの場合は、提出不要です。)

出願に必要な書類	作成方法
外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第2項の遵守のための特定類型該当性に関する確認書兼誓約書	<ul style="list-style-type: none"> 本要項添付の用紙を使用してください。
実務活動経歴書【社会人選抜のみ】	<ul style="list-style-type: none"> 本要項添付の用紙に直接記入するか、本様式に準じてパソコン等により作成してください。
受験許可書【社会人選抜のみ】	<ul style="list-style-type: none"> 現在在職中の者は、所属長の受験許可書を提出してください。 本要項添付の用紙を使用してください。
入学検定料	<ul style="list-style-type: none"> 30,000円 検定料を郵便払込の後、受領した「郵便振替払込受付証明書（お客様用）」を「入学願書」の所定欄に貼ってください。 なお、払込手数料は、出願者の負担となります。
受験票送付用封筒	<ul style="list-style-type: none"> 本要項添付の封筒（長3）に住所、氏名及び郵便番号を明記し、所定欄に410円分の切手を貼ってください。

(注1) 出願書類に不備がある場合は、受理しません。

(注2) 出願書類に虚偽があった場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

(注3) 一旦受理した出願書類及び入学検定料は、理由のいかんを問わず返還しません。

(注4) 婚姻等により、卒業（見込）証明書等と姓が異なる場合は、戸籍抄本を同封してください。（ただし、出願資格審査において提出済みの場合は、提出不要です。）

6 入学者選抜方法

(1) 一般選抜

筆記試験（英語）、口述試験、面接及び出願書類により総合して判定します。

(2) 社会人選抜

筆記試験（英語）、面接及び出願書類により総合して判定します。

なお、社会人選抜では実務活動経歴書を提出することにより、口述試験を免除します。

(3) 評価内容、アドミッションポリシー（AP）との関係

筆記試験では、各専門領域に関する英文を出題し読解させることにより、主にAP3で求める研究領域に対する知識や研究・探究に必要な知識・思考力について評価を行います。

口述試験では、大学等における卒業研究に関する発表及び質疑応答を行い、主にAP3で求める研究領域に対する知識や研究・探究に必要な知識・思考力について評価を行います。

面接では、志望動機や修了後の展望等についての質疑を通じて、主にAP1で求める自身の役割を自覚し他者と協働する姿勢や、AP2で求める社会貢献の意識、AP3で求める主体的に研究を進めていく意欲等について評価を行います。（APは本要項1枚目を参照）

7 試験期日、時間及び試験場

一般選抜、社会人選抜ともに以下の日程で実施します。

期 日	科目名等	時 間	試 験 場
冬季選抜 令和6年12月15日(日)	筆記試験(英語)	午後1時～午後1時40分	福島県立医科大学 福島駅前キャンパス
	口述試験、面接	午後2時20分～	

※ 試験場の詳細及び集合時間等は受験票送付時に通知します。

8 受験時の注意事項

- (1) 試験当日は、受験票を必ず持参してください。なお、受験票を忘れた場合は、試験本部にその旨を申し出て、再発行を受けてください。また、入学手続の際に必要なになるので、試験後も大切に保管してください。
- (2) 受験者は、午後0時30分までに試験場に集合して受験に関する指示を受けてください。
- (3) 筆記試験開始後、20分以内の遅刻に限り受験を認めます。なお、この場合試験時間の延長は認めません。
- (4) 携帯電話等電子機器は、試験場に入る前に電源を切っておいてください。
- (5) 筆記試験(英語)では、英和辞典1冊(電子辞書を除く)の持込みを許可します。
- (6) 試験時の机上には、受験票、筆記用具及び時計(計時機能だけのもの)及び英和辞典以外は置かないでください。
- (7) 試験妨害又は不正行為があったときは、直ちに退室を命じその後の受験は認めません。

9 合格者発表

合格者は、次の方法により発表、通知します。

なお、入学者選抜の可否に関し電話等による問い合わせには応じません。

- (1) 「合格者受験番号一覧表」の掲示による発表
次の日時、掲示場所において合格者の受験番号を掲示します。

【冬季選抜試験】

〈掲示日時〉令和6年12月25日(水)午後1時

〈掲示場所〉福島駅前キャンパス 正面玄関横

- (2) 可否の通知
合格者には、合格通知書を速達で郵送します。
- (3) ホームページ掲載による参考発表
本学のホームページに合格者の受験番号を参考までに掲示します。
なお、これは参考掲示であるので、上記(1)、(2)のいずれかの方法とあわせて確認してください。
(本学保健科学研究科のホームページのアドレス <https://fmu-hs.jp/>)

10 入学手続

下記に示す手続場所にて、手続期間内に入学手続を行ってください。(詳細は合格者に別途通知します。)

- (1) 入学手続期間
令和7年1月16日(木)から令和7年1月30日(木)

受付時間：午前9時から午後5時まで（土曜日、日曜日を除く。）
郵送による場合は書留速達とし、手続期間内必着のこと。

(2) 入学料及び授業料

- ① 入 学 料 282,000円（予定額、入学手続時に納付）
- ② 授 業 料 年額535,800円（予定額、毎年4月、10月の2回で分納）

※ 入学料及び授業料については変更されることがあります。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

(3) 入学手続場所

〒960-8516 福島県福島市栄町10番6号
福島県立医科大学 保健科学部事務室 入試・企画係
(福島駅前キャンパス1階 教務関係事務室)

11 入学手続上の注意事項

- (1) 受理した入学手続に要した書類等及び入学料は、理由のいかんを問わず返還しません。
- (2) 期限までに入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものと取り扱います。
- (3) 入学手続を完了し、入学を許可された者であっても、大学等を卒業（修了）できない場合又は学士の学位を授与されない場合は、入学許可を取り消します。

12 個人情報の取扱いについて

出願の際に提出された入学願書等の書類に記載されている氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報は、入学者選抜の実施、入学手続、入学後の奨学・厚生補導及び修学指導に関する業務を行うためのみに利用します。

大学院保健科学研究科保健科学専攻（修士課程）の概要

1 目 的

福島県立医科大学大学院保健科学研究科は、保健科学の発展に寄与することができる専門職者を育成するとともに、保健科学の創造と発展に貢献することを目的とする。

2 構 成

- (1) 課程及び修業年限
本専攻は、修業年限2年を標準とする修士課程です。
- (2) 授 業 科 目
別表1のとおり

3 授業科目の概要等

- (1) 授業科目の概要
別表2のとおり
- (2) 各研究領域の指導教員連絡先
別表3のとおり

4 学位の授与

修士課程に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ学位論文を提出し、その審査および最終試験に合格することにより、修士（保健科学）の学位を授与します。

5 奨学金制度

大学院学生に対する日本学生支援機構の奨学金制度があります。

また、日本学生支援機構の奨学金を利用できない場合は、本学が独自に設けた奨学金制度を利用することができます。

参照 日本学生支援機構 <https://www.jasso.go.jp/index.html>

6 授業料等減免制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ、学業成績優秀と認められる学生に対しては、申請により授業料等を免除できる場合があります。

7 長期履修制度

学生が職業を有しているなどの事情により、本専攻の標準修業年限の2年を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的履修を認めることができる長期履修制度を設けています。

8 問合せ先及び大学案内図

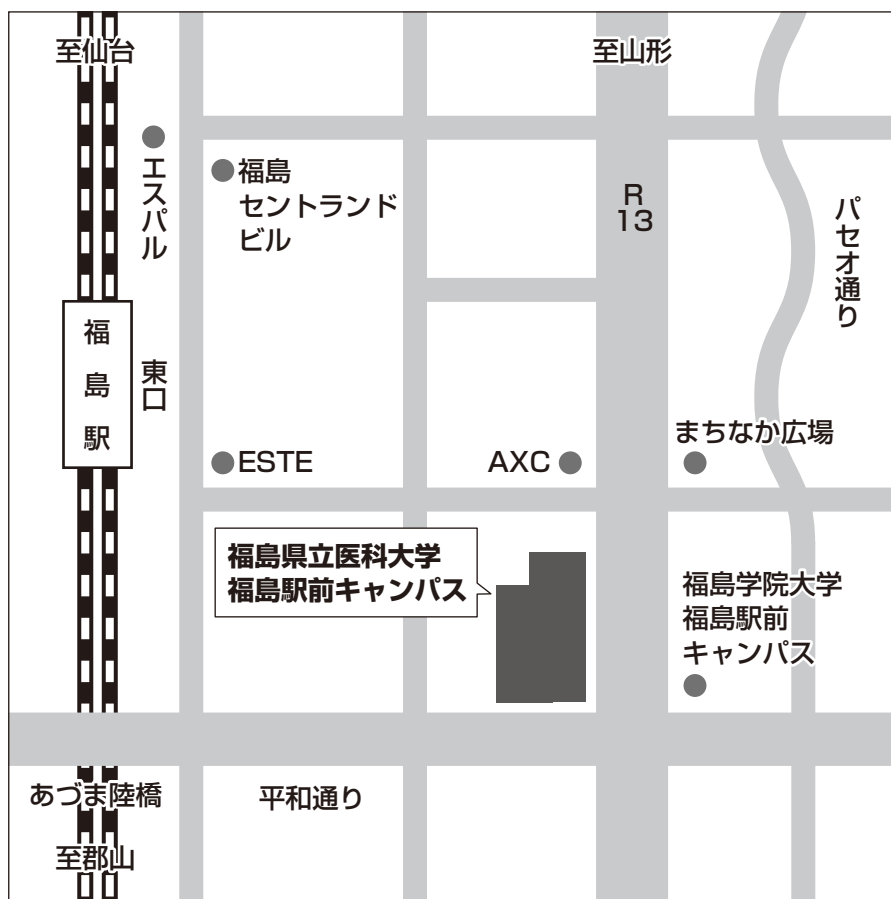
福島県立医科大学（福島駅前キャンパス）

住 所：〒960-8516 福島県福島市栄町10番6号

担 当：保健科学部事務室 入試・企画係

連絡先：TEL 024-581-5508

e-mail:h-gs@fmu.ac.jp



JR福島駅東口より徒歩5分

別表 1

授 業 科 目

授 業 科 目		単位数	区 分
共通科目	先端医療と多職種連携	2	必修
	医療・研究倫理学	2	必修
	保健科学研究方法論	2	必修
	保健科学教育論Ⅰ	2	選択
	保健科学教育論Ⅱ	2	選択
	医療統計学	2	選択
	データサイエンス（画像系）	2	選択
	データサイエンス（オミクス解析）	2	選択
専門基礎科目	身体障害とリハビリテーション	2	選択
	精神障害とリハビリテーション	2	選択
	老年期障害とリハビリテーション	2	選択
	発達障害とリハビリテーション	2	選択
	生体画像情報学	2	選択
	分子情報解析学	2	選択
	放射線計測と防護	2	選択
	放射線病態影響学	2	選択
	臨床検査学最新技術論	2	選択
	生物分子の分析と探求	2	選択
理学療法学領域科目	運動器障害学特論	2	選択
	運動器障害学演習Ⅰ	2	選択
	運動器障害学演習Ⅱ	2	選択
	神経・小児障害学特論	2	選択
	神経・小児障害学演習Ⅰ	2	選択
	神経・小児障害学演習Ⅱ	2	選択
	内部障害学特論	2	選択
	内部障害学演習Ⅰ	2	選択
	内部障害学演習Ⅱ	2	選択
	地域・予防学特論	2	選択
	地域・予防学演習Ⅰ	2	選択
	地域・予防学演習Ⅱ	2	選択
	作業療法学領域科目	生活機能障害作業療法学特論	2
心身機能作業療法学演習Ⅰ		2	選択
心身機能作業療法学演習Ⅱ		2	選択
活動・参加作業療法学演習Ⅰ		2	選択
活動・参加作業療法学演習Ⅱ		2	選択

授 業 科 目		単位数	区 分
診療放射線科学領域科目	医用画像情報工学特論	2	選択
	医用画像情報工学演習 I	2	選択
	医用画像情報工学演習 II	2	選択
	医用画像科学特論	2	選択
	医用画像科学演習 I	2	選択
	医用画像科学演習 II	2	選択
	核医科学特論	2	選択
	核医科学演習 I	2	選択
	核医科学演習 II	2	選択
	放射線治療科学特論	2	選択
	放射線治療科学演習 I	2	選択
	放射線治療科学演習 II	2	選択
	医学物理特論	2	選択
	医学物理演習 I	2	選択
	医学物理演習 II	2	選択
臨床検査学領域科目	臨床病理学特論	2	選択
	臨床病理学演習 I	2	選択
	臨床病理学演習 II	2	選択
	臨床微生物学特論	2	選択
	臨床微生物学演習 I	2	選択
	臨床微生物学演習 II	2	選択
	臨床生理検査学特論	2	選択
	臨床生理検査学演習 I	2	選択
	臨床生理検査学演習 II	2	選択
	臨床血液学特論	2	選択
	臨床血液学演習 I	2	選択
	臨床血液学演習 II	2	選択
	疾患生化学特論	2	選択
	疾患生化学演習 I	2	選択
	疾患生化学演習 II	2	選択
特別研究	10	必修	

別表 2

授業科目の概要

区分	授業科目	単位数	概 要
共通科目	先端医療と多職種連携	2	リハビリテーション、診療放射線科学、臨床検査、看護学等の保健医療分野に関わる専門家が、研究の視点から先端医療の進展にどのように関与し、それを推進していくかを学ぶ。科学的探求と臨床研究を通じて、これらの領域での新しい技術や治療法の開発と評価に焦点を当てる。専門家がどのように独自の研究を通じて知識を深め、多職種のチームでの協力を通じて革新的なアプローチを推進し、患者の治療結果と医療の質を向上させるかを探求する。
	医療・研究倫理学	2	研究者一人一人は科学の健全な発展のためにも高い倫理観を持って新たな知の創造や社会に還元できる発明に取り組むことが求められている。そして、社会の信頼を維持しつつも、普遍的な知識の蓄積は社会貢献に繋がることを理解した上で、正当な手段と方法によって研究を進めていく必要がある。本科目では、社会からの信頼を維持した上で医学・医療に関わる研究を行うにあたり、研究参加者を保護する重要性の認識、医療倫理的な問題や研究全般に関する不正行為について歴史的背景から理解を深め、研究倫理に関する国際的なガイドラインを学ぶことで、大学院での科学研究行動規範を学ぶ。
	保健科学研究方法論	2	研究とは未知の現象を明らかにし、論文として報告するものである。本科目では、基礎研究と臨床研究のそれぞれに関して疫学研究、症例研究、臨床研究、バイオマーカー開発などの基礎研究など実際に取り組んでいる多分野にわたる研究課題を紹介し、概説することで、研究に必要な基礎理論と方法論の知識を習得し、大学院での研究の立案や進め方の土台とする。また、特に医療・医学に関する研究は社会への還元を視野に入れることが多いことから、知的財産、知的財産権の基礎知識、秘密保持契約書や共同研究契約書などの契約書の基礎を習得してもらう。また、研究課題を設定した上で研究成果の実用化のためには何が必要かを考察してもらう。
	保健科学教育論Ⅰ	2	教育学を学んでいない理学療法士・作業療法士等が将来教育を担う立場になるにあたって、教育者としての資質・能力を高めることを目的としている。具体的に、本科目では「医療従事者に関わる教育理論と実践」というテーマのもと、教育学・教育心理学・教育方法学の基礎理論について学修を深める。また、教育の基礎理論を応用して、教育活動の模擬実践を行う。
	保健科学教育論Ⅱ	2	教育学を学んでいない理学療法士・作業療法士等が将来教育を担う立場になるにあたって、教育者としての資質・能力を高めることを目的としている。具体的に、本科目では「人間の発達と教育・支援」というテーマのもと、人間の発達に対する理解を深めるとともに、胎児期から老年期に至るまでの人間の発達に即した教育や支援の在り方について考察を深める。
	医療統計学	2	医療分野において、研究データの収集、分析、解釈は極めて重要である。本科目では、実際に調査、実験を計画し収集したデータを解析する上で必要な統計学的な考え方と統計手法の適用、解釈上の留意点について実例を用いて解説する。各回2～3編の論文事例を使い、臨床試験や観察研究におけるデータの基本的な統計的手法を理解し、実際の研究データの分析技術を習得する。
	データサイエンス(画像系)	2	データサイエンスの核心である「確率・統計学」と「機械学習」を深く体系的に学び、それらを医用画像データへどのように活用しているかを学ぶ。具体的には、データサイエンスの社会的背景と概要、確率と統計解析、情報と医療データの倫理、科学計算、データ加工処理、機械学習、そして深層学習(ディープラーニング)について学習する。この科目を修了することで、医用画像データへのデータサイエンスの適用に必要な基礎知識を身につけ、その考え方、活用方法、各種技術を理解することができる。
データサイエンス(オミクス解析)	2	近年の急激な技術発展により、次世代シーケンサーをはじめとしたオミクス解析は、研究や創薬の現場に欠かせない技術となっている。これに伴い様々なウェブツールなども普及し、オミクス解析は既に一部の専門家のみならず、初学者でも実施が可能なものとなっている。一方でこのような大規模データを有効に活用する為には、解析方法や統計分析の基本的な考え方を理解することが必須となる。本科目では実データを用いた解析演習を通じてオミクス解析の基本的な考え方や技術を習得するとともに、医療・創薬研究において研究計画をデザインする能力を身に着けることを目的とする。	
専門基礎科目	身体障害とリハビリテーション	2	身体障害に対するリハビリテーションを科学的に行うための手法について理解する。リハビリテーションでよく遭遇する疾患に対する信頼性や妥当な評価方法を学修するとともに、最新の知見を含んだ講義を行う。国内外文献の抄読・まとめを通して、最新の身体障害に対するリハビリテーションの世界的な動向を把握し、評価・治療技術発展のための基盤を形成できるように教授する。
	精神障害とリハビリテーション	2	精神障害を生物学的、心理社会的側面から捉え、リハビリテーション専門職としての臨床実践や研究計画立案のために必要な精神医学とその関連領域における最新の知見を学ぶ。内容としては診断類型、薬物療法の概要を理解した上で、統合失調症、うつ病、依存症、認知症や摂食障害など児童思春期に多い精神疾患における作業療法を中心とした精神科リハビリテーションについて症例・事例研究も加え理解を深める。さらに、最近注目されてきた地域や司法領域における作業療法研究の基礎を習得する。

区分	授業科目	単位数	概 要
専 門 基 礎 科 目	老年期障害 とリハビリ テーション	2	日本における人口構造・疾病構造の変化や加齢に伴う高齢者の特徴を理解し、現代のリハビリテーションの在り方について身体・精神・社会的な側面より教授する。国内外文献の抄読・まとめを通して、老年期にある人に対するリハビリテーションの世界的な動向を把握し、評価・介入技術発展のための基盤を形成できるように教授する。
	発達障害と リハビリ テーション	2	発達障害児（者）は、各疾患によって障害特性が異なり、ライフステージによって発達課題が変化するため、個別的な治療・支援が必要とされる。本科目では各疾患の疫学や障害の特性を理解した上で、リハビリテーションの専門職である理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を中心に、エビデンスに基づいた介入方法、臨床実践で活用されている理論や支援技術について学ぶ。
	生体画像 情報学	2	近年の医療画像機器の目まぐるしい発展により画像生成技術は複雑化してきている。医療画像の研究を始める際にその基本原理を学ぶことと各医療機器の発展の歴史と現在の臨床応用を学ぶことは研究の種を生み出す上で重要なことである。本科目では、医療画像として主にX線画像、MRI、CTの開発から現在までの臨床応用と基本原理を学び、各領域の専門家が画像生成技術、画像処理技術、画像評価・解析技術、実験に必要なファントム作成技術や新たな画像化技術・トレンドまでを包括的に教授する。
	分子情報 解析学	2	生体は様々な分子により恒常性が制御され、それが破綻することで疾患になること、またその変化を捉える方法を学ぶ。そして変化を捉えることが疾患の診断、治療へつながることを理解するのが目的となる。具体的には、変化する指標として組織中の受容体やリガンド分子などの生体内情報伝達を司る分子群の変化を捉える方法を教授する。その変化を捉えるための放射性薬剤開発、検出器開発、臨床試験へ向けた品質管理法などを汎用されている方法から最新の知見までを教授する。
	放射線計測 と防護	2	医療に应用されている放射線の計測方法について、汎用的な電離箱検出器から積算型線量計、スペクトロメータを用いた線量評価法、エネルギー評価法を学ぶ。また、それらの線量計の応用として、乳房撮影装置、血管撮影装置、CT装置における線量計測法や被ばく評価法を学ぶ。また、線量計測が困難な例として、小児領域の線量計測法やモンテカルロ法を用いた解決法についても理解する。最後に、福島第一原発事故後の環境放射能評価、体外計測法・バイオドジメトリーを通して、効果的な放射線防護法を学ぶ。
	放射線 病態影響学	2	放射線の生体影響についてのメカニズムを習得し、正常組織への影響を下げながら腫瘍への治療効果を上げるために必要な放射線治療技術の開発や、免疫療法をはじめとした併用療法について学ぶ。
	臨床検査学 最新技術論	2	画像医学領域におけるイメージング技術の飛躍的進歩、ゲノム解析を中心とする分子生物学的解析技術の普及と発展、質量分析装置などの先進計測機器の臨床医学領域への応用など、近年の臨床検査領域における技術向上には目覚ましいものがある。一方、これらの検査技術を有効に活用するためには設備（ハード）の整備のみでは不十分であり、それぞれの技術特性に応じた解析手法（ソフト）の習得が不可欠である。本講義では、最新の検査技術とその解析手法を理解することで、自らの医学・医療に関する研究計画の立脚に生かすための応用力を習得してもらうことを目的としている。
	生物分子の 分析と探求	2	私達の体を構成する生体分子である核酸、タンパク質、複合糖質、脂質の恒常性の破綻は生活習慣病、がん、神経変性疾患など多岐にわたる疾患の発症、進行につながり、また感染症はそれぞれ独自の仕組みで生体の分子メカニズムに働きかけて生体内の恒常性の破綻を導く。本科目では、特にメディカルニーズの高い医療研究分野を中心に、疾患発症に関わる疾患の分子メカニズムを明らかにするための探求を行っている、日本国内での先駆的かつ多様な研究内容を紹介するとともに、疾患治療薬への開発の試み、バイオマーカーの探索のための分析技術なども紹介していくことで、第一線の基礎研究内容について理解を深め、自らの研究計画に生かしてもらうことを目的としている。
理学療法 学領域 科目	運動器障害 学特論	2	運動器系の病態と機能障害の機序、及び運動器障害の予防・治療のための機能回復の具体的な方策について理解できることを目的として、国内外文献の抄読・まとめを通して、最新の運動器障害に対する理学療法の世界的な動向を把握し、評価・治療技術発展のための基盤を形成できるように教授する。
	運動器障害 学演習Ⅰ	2	運動器系の病態と機能障害の機序、及び運動器障害の予防・治療のための機能回復に関する研究を理解することを目的として、運動器系の病態と機能障害の機序、及び運動器障害の予防・治療のための機能回復に関して必要な理学療法学的な手技を教授するとともに、それらをリハビリテーション治療に関する研究にどのように発展させていくかを教授する。

区分	授業科目	単位数	概要
理学療 法 学 領 域 科 目	運動器障害学演習Ⅱ	2	運動器系の病態と機能障害の機序、及び運動器障害の予防・治療のための機能回復に関する研究を理解し、実施計画を立案できることを目的として、運動器系の病態と機能障害の機序、及び運動器障害の予防・治療のための機能回復に関する研究の方法や解析を理解し、実施計画書を作成する。
	神経・小児障害学特論	2	神経障害・小児神経障害に関連する病因および病態を学び、疫学的・社会的な影響を理解し、病態に応じた治療とリハビリテーションの背景についての知識を習得し、得た知識を臨床研究に応用できるよう学んでいく。神経・小児理学療法を実践するための中枢神経疾患の運動・感覚機能の病態理解や効果判定としての各種検査方法、動作能力を評価するための運動学・運動力学的分析手法、さらに脳画像所見の活用法や画像解析に基づく情報の臨床応用、認知機能や高次脳機能を評価するための手法や、発達を評価する手法など、評価法に関する知識について講義と討議を通して教授する。
	神経・小児障害学演習Ⅰ	2	神経・小児神経障害に関連した一般的な評価および治療技術の変遷を学ぶことから始まり、その背景にある病態の解明に向けた脳画像解析、工学的な解析、疫学的・社会的調査についての変遷について教授する。神経理学療法学に基づく治療方法の開発に向けて、中枢神経疾患の効果判定としての各種評価や治療技術の開発に発展させていくための礎を構築する。特に、ICTやデジタルデバイスの活用、痙縮治療、非侵襲的な電気刺激法や装具療法を用いた歩行能力再建技術などの理学療法介入の理論的背景を重点的に解説し、これらの実践的な知識を教授する。
	神経・小児障害学演習Ⅱ	2	神経・小児神経障害に関連した先端的な評価および治療技術を実学的に学び、その背景にある病態の解明にむけた脳画像解析、工学的な解析、疫学的・社会的調査の最先端について教授する。神経理学療法学に基づく治療方法の開発に積極的に取り組み、中枢神経疾患の効果判定としての各種評価や治療技術の開発に発展させるための実学を習得する。特に、ICTやデジタルデバイスの活用、痙縮治療、非侵襲的な電気刺激法や装具療法を用いた歩行能力再建技術などの理学療法介入の理論的背景を重点的に解説し、更なる最新治療法の開発に繋げるための実践的な知識を教授する。
	内部障害学特論	2	呼吸・循環・がん・腎臓・代謝などの内部障害の病態を把握するための最新の客観的評価法とそれらに対する治療全般について系統的に学習する。内容は内部障害領域に関連する国内外のガイドラインや文献の抄読・まとめを通して、内部障害理学療法における評価・治療技術発展のための基盤を形成するための講義を行う。また、最新の内部障害理学療法の動向を把握しながら、各疾患において現在臨床場面で課題となっているトピックスを教授する。
	内部障害学演習Ⅰ	2	呼吸・循環・がん・腎臓・代謝などの内部障害の病態を把握するために必要となる理学療法的知識および技術を最新の文献やガイドラインから学ぶとともに、それらをどのように新たな理学療法研究に発展させていくかを教授する。内容は学生自身が国内外のガイドラインや文献の抄読を行い、最新の内部障害理学療法の動向を把握するための演習を行う。そして、その中で今後解決すべき研究課題を整理し、新たな理学療法研究に発展させるための議論を行う。
	内部障害学演習Ⅱ	2	呼吸・循環・がん・腎臓・代謝などの内部障害の病態を把握するための最先端の研究方法を教授するとともに、運動生理学的手法を用いた基礎的研究や関連分野の臨床研究を実際に行い、データの解析と結果のまとめまでを教授する。内容は学生自身が国内外のガイドラインや文献の抄読を行いながら、新たに解決すべき研究課題を創出する。そして、その研究を実現するための最先端の研究手法やデータ解析方法を教授しながら、学生自身が実際に運動生理学的手法を用いた基礎的研究や関連分野の臨床研究を行い、データの解析と結果のまとめまでを行う。
	地域・予防学特論	2	保健・医療・福祉の分野で生活する人々や機関・組織と協働しながらすすめる実践活動について科学的根拠に基づいた地域・予防理学療法学の視点より教授する。地域・予防学領域に関連する国内外のガイドラインや文献の抄読・まとめを通して、地域・予防学における評価・介入技術のための基盤を形成するための講義を行う。また、最新の地域・予防学の動向を把握しながら、地域において課題となっているトピックスを教授する。
	地域・予防学演習Ⅰ	2	生活期の地域理学療法および予防理学療法にかかわる対象者への評価や介入、効果の検証についてゼミナール形式において討論する。学生自身が国内外のガイドラインや文献の抄読を行い、最新の地域・予防学の動向を把握するための演習を行う。そして、その中で今後解決すべき研究課題を整理し、新たな理学療法研究に発展させるための議論を行う。
地域・予防学演習Ⅱ	2	生活期の地域理学療法および予防理学療法にかかわるフィールドにおいて学生自らテーマを立て、研究計画の立案、研究の実施、論文作成の過程をゼミナール形式においてすすめる。学生自身が国内外のガイドラインや文献の抄読を行いながら、新たに解決すべき研究課題を創出する。そして、その研究を実現するための最先端の研究手法やデータ解析方法を教授しながら、学生自身が実際に研究フィールドを管理運営して関連分野の研究を行い、データの解析と結果のまとめまでを行う。	

区分	授業科目	単位数	概要
作業療法学領域科目	生活機能障害作業療法学特論	2	作業療法では身体障害や精神障害、発達障害、老年期障害など、様々な対象者の生活機能障害の改善を目的とした介入を行う。本特論は国際生活機能分類において生活機能と規定される「心身機能」と「活動・参加」に焦点を当て、作業療法実践及び研究に関する知見を学ぶ。内容としては、脳卒中や認知症の心身機能と生活機能との関連や日常生活活動の自立に必要な心身機能の水準、老年期における生活機能の関連要因、作業環境と作業効率、さらには特別支援教育での作業療法実践など、対象者の「心身機能」と「活動・参加」に関する作業療法実践及び研究の最新動向を教授する。
	心身機能作業療法学演習Ⅰ	2	人の作業、生活機能の基盤となる心身機能に焦点を当て、心身機能と作業との関連や心身機能障害が作業に与える影響、心身機能の回復に向けた効果的な作業療法等に関する研究手法について学習する。内容としては、心身機能障害と作業療法に関する研究テーマについて、文献検索、国内外の文献レビューの演習・討議を通して、既知と未知の研究領域を明確化し、今後の研究課題を明らかにする手法を教授する。
	心身機能作業療法学演習Ⅱ	2	人の作業、生活機能の基盤となる心身機能に焦点を当て、心身機能と作業との関連や心身機能障害が作業に与える影響、心身機能の回復に向けた効果的な作業療法等に関する研究手法について学習する。内容としては、心身機能作業療法学に関する研究テーマについて、測定尺度の検討や測定方法演習、研究データの統計解析演習等を通して、研究実践につながる手法を教授する。
	活動・参加作業療法学演習Ⅰ	2	人のQOLと関連する活動や社会参加に焦点を当て、活動や参加と作業との関連や活動や参加が作業に与える影響について、その基本的な研究手法について学習する。内容としては、活動や参加と作業療法に関する研究テーマについて、文献検索、国内外の文献レビューを通して、既知と未知の研究領域を明確化する際に必要となる手法を教授する。さらに、討議を通して、研究課題を明らかにする過程について理解を深める。
	活動・参加作業療法学演習Ⅱ	2	人のQOLと関連する活動や社会参加に焦点を当て、活動や参加と作業との関連や活動や参加が作業に与える影響について、その応用的な研究手法について学習する。内容としては、活動や参加と作業療法に関する研究テーマについて、測定尺度の検討や解析方法、測定機器の操作、研究計画を立案する手法を教授する。研究の一連の過程について、演習を通して理解を深める。
診療放射線科学領域科目	医用画像情報工学特論	2	医用画像における医用画像取得技術、画像認識法、画像評価法、画像処理法・画像情報抽出法とその応用を学ぶ。また、医用画像分野における人工知能技術を利用したコンピュータによる画像診断を支援する知的システムの構築方法について学ぶ。目覚ましい速度で進展しているこの分野の最新情報を得るため、医用画像取得技術ではX線CTの先端技術を紹介し、コンピュータによる画像診断支援システムでは、本科目履修時点の最新の人工知能技術を取扱いそれらの理解を深める。
	医用画像情報工学演習Ⅰ	2	医用画像情報工学特論で習得した知識を活かし、図書・学術雑誌あるいはインターネットなどを用いて、情報理論・画像工学・画像処理学・視覚情報処理・人工知能・医用画像におけるコンピュータ診断支援等に関する国内外の文献や資料を精読することによって、医用画像情報学特論での講義内容の理解をさらに深める。さらにそれらを英語で学会発表、論文投稿するための技術を習得する。この科目を終了することで、医用画像の処理と認識を実践できる知識を深め、自分自身で研究した知見を英語を用いて学術的にまとめて発表できるようになることを目指す。
	医用画像情報工学演習Ⅱ	2	医用画像情報工学特論と医用画像情報工学演習Ⅰで習得した知識を基に、画像処理と機械学習のスキルを習得する。具体的には、プログラミング言語「Python」の基本知識を身につけ、画像処理技術（画像の取得と前処理、フィルタリング）と、機械学習とその評価・検証方法を習得する。この科目では実践的な演習を通して、「Python」を使ったプログラミングスキルを向上させ、自ら、医用画像に対する画像処理と機械学習を組み合わせた活用を実践できる能力を身につける。
	医用画像科学特論	2	生体における構造や機能の解明、病態の診断に用いるX線画像、MR画像、核医学画像、超音波画像等の医用画像全般について、その生成に必要な機器類、測定法、画像再構成法等に関する医学物理学的、かつ工学的な原理や技術を教授すると共に、得られた画像等のデータの解析法や表示法等について最新の理論と技術を教授する。また、医用画像を活用した前臨床及び臨床研究手法を説明すると共に、種々の疾病や病態における医用画像の生成原理と診断理論を教授し、研究における様々な医用画像の活用方法について理解を深める。
	医用画像科学演習Ⅰ	2	画像診断技術を用いた生体構造の解明や病態における構造変化の解析のための測定技術や画像処理・解析手法について、基礎的な論文を読み解き内容を理解すると共に、その活用法や限界などについて議論する。そして、自身の興味に基づく研究テーマの設定を行い研究計画書を作成する。病態等を評価するための生体構造・機能等の測定法について学修する。X線、磁気共鳴、マルチモダリティを用いた測定・解析に関する論文を収集・抄読し、研究計画書を作成する。

区分	授業科目	単位数	概要
診療放射線科学領域科目	医用画像科学演習Ⅱ	2	画像診断技術を用いた生体機能の解明や病態における機能変化の解析のための測定技術や画像処理・解析手法について、演習Ⅰで設定して作成した研究計画書を元にその研究活動の実際について議論し演習する。病態等を評価するための生体構造・機能等の測定法を活用した研究について学修する。演習Ⅰで作成した研究計画書の内容に基づき情報収集、データ取得、解析、議論などの過程を経て、研究目的に応じた成果をまとめる。随時学生・教員を含めた全体で議論を重ねて成果の精度向上に努めると共に、成果をまとめて発表して討論を行う。
	核医学特論	2	核医学的アプローチの特徴である機能評価や生体内挙動の解析を通じて、核医学検査の臨床的意義について習得する。また、核医学検査における基本的な理論や技術、最新の研究動向を深く探求する。さらに、放射性薬剤の生体内動態、画像診断の基本原則、そして最先端な核医学治療及び核医学機器開発に関する研究成果と、それらを支える理論的背景についても教授する。
	核医学演習Ⅰ	2	核医学特論で習得した知識を活かし、核医学画像の画質や定量性に影響する撮像、処理の因子について文献にて理解する。また、核医学の基本的な研究手法に焦点を当て、論文の論理的読解法やデータ解析法を実践的な演習を通して習得する。放射性薬剤の開発や核医学画像の収集、再構成、解析に関する研究手法の論理的背景と実践的技法について教授する。
	核医学演習Ⅱ	2	核医学特論と核医学演習Ⅰで習得した知識を基に、核医学の高度な研究手法と技術を更に探求する実践的な演習を提供する。先進的な研究論文の詳細な読解、新しい診断・評価方法の研究、及びそれらの論理的な解釈と応用技法について教授する。
	放射線治療科学特論	2	放射線治療を支える物理学的背景、技術的進展、治療計画手法の最適化などに焦点を当てながら、治療効果を向上させる方法論と集学的治療における位置付けについて最新の動向も踏まえて教授する。放射線治療の物理技術的、臨床的な質的保証（quality assurance; QA）の必要性を学び、QAを満足するための具体的かつ実践的な品質管理手法について学習する。放射線治療における各プロセスにおけるQAの必要性を理解することで総合的に治療効果を評価し、治療法の発展に寄与できる能力を身に付ける。
	放射線治療科学演習Ⅰ	2	放射線治療計画の立案と最適化、線量計算、画像誘導技術などについて、基礎的な論文の抄読を通して、その考え方と応用方法について教授する。また、高精度放射線治療に必要な治療計画最適化手法、線量計算、患者セットアップ、画像誘導技術、線量計測などについて知識と実行性を融合させた演習を通して学習する。本演習を通して実際の臨床現場で遭遇するであろう種々の課題について、客観的事実に基づいて問題を言語化し、課題解決アプローチについて考察できる能力を養う。
	放射線治療科学演習Ⅱ	2	放射線治療計画の立案と最適化、線量計算、画像誘導技術などについて、最新の論文から得られた知識に基づいてその考え方と応用方法について教授する。また、高精度放射線治療に必要な治療計画最適化手法、線量計算、患者セットアップ、画像誘導技術、線量計測などに関する具体的な課題について取り組むことで解決手法の立案から得られた結果の解釈、そして論理的考察について学びを深める。本演習を通して実際の臨床現場で遭遇するであろう種々の課題について、客観的事実に基づいて問題を言語化し、実行性のある課題解決アプローチ手法を提案できる能力を養う。
	医学物理特論	2	医学物理学は理工学の知識と成果を医学に応用する分野である。医療技術は日進月歩であり、新たな技術の臨床現場への展開や現在抱えている課題を解決するために必要とされる基本原理にもとづいた論理的思考とそれを実践できる能力が求められる。本特論では放射線治療をはじめ、画像診断、核医学、保健物理学も含めた医学物理学の知識・技術ならびに物理学的品質管理の基礎を中心に医療の質向上に貢献するための物理学的アプローチを教授する。
	医学物理演習Ⅰ	2	画像診断、核医学、放射線治療の物理技術的基礎と応用、品質管理など、医学物理特論での学習内容を身に付けるために演習を行う。画像診断学、核医学物理学、放射線治療物理学、保健物理学に関連する複合的な課題について演習する。また、これらの課題への取り組みに加えて基礎的な論文を精読することで論理的思考能力を身に付ける。本演習では、幾つかの課題に取り組む、議論を積み重ねることで医学物理分野における種々の問題を解決する能力を養う。
医学物理演習Ⅱ	2	画像診断、核医学、放射線治療の物理技術的基礎と応用、品質管理など、医学物理特論での学習内容を身につけるために演習を行う。画像診断学、核医学物理学、放射線治療物理学、保健物理学に関連する複合的な課題について演習する。また、これらの課題への取り組みに加えて最新の論文を精読することで論理的思考能力とリアルワールドにおける実践的展開能力を身に付ける。本演習では、幾つかの課題に取り組む、議論を重ねることで医学物理分野における種々の問題を解決する具体的手法を提案できる能力を養う。	

区分	授業科目	単位数	概要
臨床検査学領域科目	臨床病理学特論	2	病理学は従来の「形態学」を基盤とした診断に加えて、遺伝子異常や機能解析、さらには腫瘍性疾患の治療に深く関わる分野となってきた。検索方法もホルマリン固定パラフィンブロックや細胞診検体を基本に様々な手技で得られたものが用いられ、タンパクや遺伝子発現の異常を確認することが診断や研究に欠かせないものになっている。また、バーチャルスライドなど標本のデジタル化にともなってAIによる画像解析も行われるようになってきた。本特論では腫瘍性疾患や炎症性疾患における病態を細胞、組織レベルで理解するための細胞診断学、病理診断的な研究アプローチについて教授する。
	臨床病理学演習Ⅰ	2	病理学は従来の「形態学」を基盤とした診断に加えて、遺伝子異常や機能解析、さらには腫瘍性疾患の治療に深く関わる分野となってきた。検索方法もホルマリン固定パラフィンブロックや細胞診検体を基本に様々な手技で得られたものが用いられ、タンパクや遺伝子発現の異常を確認することが診断や研究に欠かせないものになっている。また、バーチャルスライドなど標本のデジタル化にともなってAIによる画像解析も行われるようになってきた。本演習Ⅰでは腫瘍性疾患や炎症性疾患における病態を細胞、組織レベルで理解するための細胞診断学、病理診断的な研究方法やトレンドについて、基礎的な論文を読み、その内容について論理的に伝えることができるような技法を習得する。
	臨床病理学演習Ⅱ	2	病理学は従来の「形態学」を基盤とした診断に加えて、遺伝子異常や機能解析、さらには腫瘍性疾患の治療に深く関わる分野となってきた。検索方法もホルマリン固定パラフィンブロックや細胞診検体を基本に様々な手技で得られたものが用いられ、タンパクや遺伝子発現の異常を確認することが診断や研究に欠かせないものになっている。また、バーチャルスライドなど標本のデジタル化にともなってAIによる画像解析も行われるようになってきた。本演習Ⅱでは腫瘍性疾患や炎症性疾患における病態を細胞、組織レベルで理解するための細胞診断学、病理診断的な最新の研究方法やトレンドについて、より実践的な論文を読み、その内容について論理的に伝えることができるような技法を習得する。
	臨床微生物学特論	2	COVID19や梅毒に代表される新興・再興感染症の脅威、次々に出現する新たな薬剤耐性菌とその世界的蔓延が示すように、医療技術の進歩した現在においても感染症対策は人類における最も重要な課題のひとつに変わりはない。感染症対策を適切に行うためにはまずは相手を知ることが重要であり、基礎医学をベースとした研究の重要性はますます高まっている。本特論では、微生物の病原性、薬剤耐性、疫学的特徴ならびに感染症迅速診断法を理解するための最新の研究アプローチについて教授する。
	臨床微生物学演習Ⅰ	2	COVID19や梅毒に代表される新興・再興感染症の脅威、次々に出現する新たな薬剤耐性菌とその世界的蔓延が示すように、医療技術の進歩した現在においても感染症対策は人類における最も重要な課題のひとつに変わりはない。感染症対策を適切に行うためにはまずは相手を知ることが重要であり、基礎医学をベースとした研究の重要性はますます高まっている。本演習Ⅰでは、微生物の病原性、薬剤耐性、疫学的特徴ならびに感染症迅速診断法を理解するための研究方法やトレンドについて、基礎的な論文を読み、その内容について論理的に伝えることができるような技法を習得する。
	臨床微生物学演習Ⅱ	2	COVID19や梅毒に代表される新興・再興感染症の脅威、次々に出現する新たな薬剤耐性菌とその世界的蔓延が示すように、医療技術の進歩した現在においても感染症対策は人類における最も重要な課題のひとつに変わりはない。感染症対策を適切に行うためにはまずは相手を知ることが重要であり、基礎医学をベースとした研究の重要性はますます高まっている。本演習Ⅱでは、微生物の病原性、薬剤耐性、疫学的特徴ならびに感染症迅速診断法を理解するための研究方法やトレンドについて、より実践的な論文を読み、その内容について論理的に伝えることができるような技法を習得する。
	臨床生理検査学特論	2	心血管疾患とがんは本邦における二大疾病である。高齢化とともに本邦における不整脈、心筋梗塞、心不全、脳卒中や認知症の増加は医療や介護、そして社会政策上も大きな問題となっている。また、免疫チェックポイント阻害薬など各種のがん治療の進歩により、その生存率が向上する一方、がん治療に伴う心血管系の副作用に関する「腫瘍循環器学」が注目されており、循環器系・呼吸器系・消化器系・神経系・腎泌尿器系・神経系等多領域を包括的に評価し適切に管理する必要がある。その為、臨床医学をベースとした臨床生理検査学に関する研究の重要性はますます高まっている。本特論では、心電図、脈波、脳波、エコー検査など各種の臨床生理検査を活用した研究アプローチについて教授する。
	臨床生理検査学演習Ⅰ	2	心血管疾患とがんは本邦における二大疾病である。高齢化とともに本邦における不整脈、心筋梗塞、心不全、脳卒中や認知症の増加は医療や介護、そして社会政策上も大きな問題となっている。また、免疫チェックポイント阻害薬など各種のがん治療の進歩により、その生存率が向上する一方、がん治療に伴う心血管系の副作用に関する「腫瘍循環器学」が注目されており、循環器系・呼吸器系・消化器系・神経系・腎泌尿器系・神経系等多領域を包括的に評価し適切に管理する必要がある。その為、臨床医学をベースとした臨床生理検査学に関する研究の重要性はますます高まっている。本演習Ⅰでは、心電図、脈波、脳波、エコー検査など各生理機能検査を理解するための研究方法やトレンドについて、基礎的な論文を読み、その内容について論理的に伝えることができるような技法を習得することを目的とする。

区分	授業科目	単位数	概要
臨床検査学	臨床生理検査学演習Ⅱ	2	心血管疾患とがんは本邦における二大疾病である。高齢化とともに本邦における不整脈、心筋梗塞、心不全、脳卒中や認知症の増加は医療や介護、そして社会政策上も大きな問題となっている。また、免疫チェックポイント阻害薬など各種のがん治療の進歩により、その生存率が向上する一方、がん治療に伴う心血管系の副作用に関する「腫瘍循環器学」が注目されており、循環器系・呼吸器系・消化器系・神経系・腎泌尿器系・神経系等多領域を包括的に評価し適切に管理する必要がある。その為、臨床医学をベースとした臨床生理検査学に関する研究の重要性はますます高まっている。本演習Ⅱでは、心電図、脈波、脳波、エコーなど各生理機能検査を理解するための最新の研究方法やトレンドについて、より実践的な論文を読み、その内容について論理的に伝えることができるような技法を習得する。
	臨床血液学特	2	貧血、造血器腫瘍、血栓止血異常症における病態を詳細に把握し、種々の疾患の発症機序や血液形態学的検査、免疫学的検査および分子生物学的検査について理解を深める。また輸血・造血細胞移植に関する最先端の検査法について学修する。これら血液疾患、輸血・造血細胞移植分野における新規の検査法の開発に関する可能性を追求するための研究へのアプローチにつき教授する。
	臨床血液学演習Ⅰ	2	特論で学んだ内容を踏まえて、症例について検討することで病態と検査所見を考察し、重要な血液疾患の最新の診断技術と治療についての理解をさらに深める。さらに貧血、造血器腫瘍、血栓止血異常症、輸血・造血細胞移植分野に関連する文献を抄読し最新の研究動向を探索し未知の事柄に関する研究手法を考える能力を身につける。また論文作成に必要な研究計画の立案についてともに考え、研究遂行のための様々な検査技術を身につける。
	臨床血液学演習Ⅱ	2	造血器腫瘍、貧血、凝固異常など血液疾患における病態および輸血・移植免疫学における諸問題を分子レベルで理解し問題解決に向けてどのような研究が行なわれているかを検討するため、最新の研究方法やトレンドについて、より実践的な論文を読み、その内容について論理的に伝えることができるような技法を習得する。さらに最新の研究手法を用いた造血器腫瘍の診断技術の開発、移植・輸血関連検査や血栓止血検査の開発、改良、標準化に関する研究手法を教授する。
	疾患生化学特	2	がんゲノム研究の革新的な進歩によって複数の分子標的薬も開発され、がんの種類によっては患者毎に治療薬を選択できる時代が到来した。しかしながら、ゲノム変異に対応する分子標的薬は限られており、また、いまだ効果的な治療薬の得られない難治性がんも存在するなど、がん研究の課題は残されている。さらには、アルツハイマー病をはじめとする神経変性疾患についても、現段階で得られている治療薬も限定的な効果しかない。本特論ではメデイカニーズの高いがんや神経変性疾患を中心とした病態やバイオマーカー開発に関して分子レベルで理解するための生化学・分子生物学・臨床化学的な研究トピックスを教授することで、大学院で各自が研究を進めるための方法論を構築するとともに、データの解釈について学び、論理的に研究を進める技術を習得する。
	疾患生化学演習Ⅰ	2	近年の細胞生物学的研究、分子生物学的研究、オミックス研究の革新的な発展に伴い、がんや神経変性疾患をはじめとする研究分野についての理解は深まってきたが、それとともに、それぞれの疾患に関する課題も浮き彫りになってきた。本演習Ⅰでは、最新の論文を読み、疾患研究を遂行するためにどのような研究目的を設定し、どのような手法を用いた研究計画を立案して実行した結果、得られたデータから明らかになった点を理解すると共に、どのように結論を導き出し、どのように考察をしたのか、また、今後に残された研究課題はどのようなものかを理解し、分かりやすいプレゼンテーションの技術を習得することで、医療・医学研究において重要な課題を理解し、自ら積極的に研究立案し発表できるような実力を付けてもらうことを目的とする。
疾患生化学演習Ⅱ	2	ゲノム科学の発展により、ライフサイエンスの研究分野にはパラダイムシフトが起こった。医療・医学領域で種々の疾患を対象とする生化学的な研究分野も例外ではない。各研究で用いられる手法は、個別研究から、より網羅的な視点で進める研究スタイルへと変貌を遂げている。本演習Ⅱでは、さらにそのような研究領域に踏み込んだ内容を含む最新の生化学的論文を読み、理解を深めることを目的とする。すなわち、研究目的の設定方法と立案に加え、どのような視点に基づいてデータ解析を進め、目的を達成するためのデータを抽出し、複雑な分子メカニズムの一端を解明したのか、といった考察を深める。それぞれの過程について、演習Ⅰよりさらに踏み込んだ形で理解し、プレゼンテーションする技術の向上に努めることで、医療・医学研究において重要な課題を理解し、より積極的かつ戦略的に自らが研究立案できるような実力を付けてもらうことを目的とする。	
特別研究	特別研究	10	理学療法学領域、作業療法学領域、診療放射線科学領域、臨床検査学領域における一つの研究課題に対し、先行研究の調査および現状の課題の把握、研究目的の設定、研究計画の立案、遂行から研究結果の考察、論文作成までの一連の流れについて、進捗状況の確認及び学生への研究指導を行う。

※ 本表に記載の内容は変更になる場合があります。

※ 出願の際は本学ホームページ等で最新の状況をご確認ください。

各研究領域の指導教員連絡先

研究領域	職位	氏名	研究分野等	メールアドレス
理学療法学領域	教授	矢吹 省司	整形外科、リハビリテーション医学、疼痛医学、脊椎脊髄外科	yabuki
	教授	柴 喜崇	理学療法学、リハビリテーション医学、老年学、死生学、予防、アクションリサーチ	y-shiba
	教授	森下慎一郎	リハビリテーション科学、理学療法、がん、内部障害、運動生理学、Patient Reported Outcome	morishit
	准教授	横塚美恵子	地域理学療法学、物理療法学、訪問リハビリテーション、電気刺激療法、足部形態	yokozuka
	准教授	阿部 浩明	中枢神経系リハビリテーション、神経系理学療法、脳卒中、歩行再建、脳画像解析、装具療法、姿勢定位障害、頭部外傷後遷延性意識障害	abe-hrk
	准教授	楠本 泰士	小児リハビリテーション、小児整形外科、脳性麻痺、発達障害、末梢神経機能、動作分析	kusumoto
作業療法学領域	教授	五百川和明	脳卒中リハビリテーション、作業時の心血管反応、脳卒中患者の機能予後・生活活動、等	iokawa
	教授	林 博史	臨床精神医学、老年精神医学、認知症	hhayashi
	教授	倉澤 茂樹	発達障害、特別支援教育、学校コンサルテーション	kurasawa
	教授	曾根 稔雅	疫学、公衆衛生学、老年医学、介護予防	tsone
	准教授	澄川 幸志	基礎作業療法学、障がい者スポーツ、認知症者の生活支援、転倒予防、作業活動（アクティビティ）	sumigawa
	准教授	藤田 貴昭	脳卒中リハビリテーション、運動機能回復、上肢機能、日常生活活動、予後予測法の開発	t-fujita

※ 各メールアドレス後の「@fmu.ac.jp」を省略してあります。

※ 出願の際は、各研究領域及び指導教員の最新状況を、本学ホームページでご確認ください。

裏面に続く

研究領域	職位	氏名	研究分野等	メールアドレス
診療放射線科学領域	教授	加藤 貴弘	放射線治療技術、放射線治療品質管理、粒子線治療、放射線管理	kato-ta
	教授	高橋 規之	医用画像工学	takaha-n
	教授	久保 均	磁気共鳴医学、核医学、放射線科学、分子イメージング技術学	kubo-h
	教授	長谷川功紀	放射性薬剤学、組織化学、タンパク質科学、放射線科学	hkoki
	教授	三輪 建太	核医学、放射線技術学	kmiwa
	准教授	佐藤 久志	放射線腫瘍学、放射線災害医療学、リスクコミュニケーション学、がん教育	hisashi
	准教授	五月女康作	放射線科学、磁気共鳴画像、脳機能イメージング	ksao
	准教授	福田 篤志	放射線科学、放射線計測学、X線装置出力測定、患者・術者被曝線量測定	fukuda-a
臨床検査学領域	教授	小川 一英	血液検査学、血液内科学、白血病細胞学	kogawa
	教授	宇月 美和	病理学、人体病理学、リウマチ・膠原病の病理、遠隔病理診断、細胞診断	muzuki
	教授	豊川 真弘	臨床微生物学、臨床検査学	toyokawa
	教授	北爪しのぶ	病態生化学、認知症生化学、癌生物学、糖鎖生物学、細胞生物学、バイオマーカー探索	shinobuk
	教授	義久 精臣	臨床生理検査学、内科学（一般内科、循環器、消化器、呼吸器）	yoshihis
	准教授	梅澤 敬	細胞診断学（婦人科、頭頸部、膵胆管）、病理組織学、解剖学	umezawa
	准教授	鈴木 英明	免疫学、免疫検査学	hideaki
	准教授	菅野 光俊	臨床化学、臨床検査学	sugano32

※ 各メールアドレス後の「@fmu.ac.jp」を省略してあります。

※ 出願の際は、各研究領域及び指導教員の最新状況を、本学ホームページでご確認ください。